

## 吉田祐起のプロフィール

1931年10月28日広島市生まれ。生後10カ月でポリオに罹患。戦時中の学徒動員で広島電鉄本社勤務中に原爆被爆。九死に一生を得るも、翌年、実父の労災事故死に遭遇。一家を支えるために、大学進学を断念して定時制高校に学びながら、技術職人人生を選択。高校在学中には、第一回広島県下高校英語弁論大会に出場して優勝しました。演題は「This is how I've fought my way out.」(ボクはこんなにしてわが道を切り開いてきました)。

この英語弁論大会が縁となって、英語を通じた女学院の学生さんたちとの友好関係が生じ、青春時代のひとコマを演じることになりました。その最たる物語は「人生の恩人 プトニックラヴした永遠のカノジョ」があります。また、英語が縁で結婚にまで至った女性との縁もあるのですが、後年にいたって離婚する宿命に遭遇しました。

14年間に及んだ同人生(わが人生第一毛作と称しています)で、英語力を活かして、米国同業者らとの文通を通じ、当時の日本業界では不可能視されていた新技術2つ(帯鋸のガス溶接・ヒートテンショニング)の導入に成功。独自に開発商品化した3器具(実用新案)の販売・技術指導も含めて、全国を講演・実演活動を展開する華やかな青春時代を過ごしました。

また、当時の広島県議会議員から、県費による米国業界視察研修のための渡米計画への招聘話も台頭したものでした。もし、万一にでもそれが実現していたら、おそらく米国人女性と結婚して、アメリカに永住する身となっていたらろう・・・、ということは、現在に至る、私の古き良き時代のロマンでもあります(笑)。

1960年、後継者不在の零細トラック運送事業を創業者に請われて継承。折角に構築していた「職人自営業商権」を愛弟子に譲りました。しかし、かれこれ1年間は、くだんの全国講演旅行計画を継続することを余儀なくしたものです。

爾来、32年間でグループ7社による「総合物流商社」体制を確立。「人生第二毛作」と称した同トラック運輸事業経営者時代を生きました。その間、全日本トラック協会「秩序専門委員」「税制対策委員」を通算15年間務める一方で、地元広島県トラック協会の理事や、広島支部副支部長を15、6年間務めあげました。1992年運輸大臣表彰を受賞したのは、そうした功績を認められたことによります。

1993年に期するものを得て、創業者一族とにグループ企業の経営を譲渡。業界への恩返しの心で、新会社(株式会社ロジタント)を設立。総合物流・経営コンサルタントに転じました。その背景には、世に言う「家族争議」がありました。世にありがちの創業者家の経営権を巡る問題。潔く、全てを前妻の元姓を名乗る(らされた)3子に譲っての業界引退でした。

「人生第三毛作」と称した、その15年間では、契約クライアント5社(東広島市・大阪市・京都府・東京都福井市)ほかに対する社員研修を手掛けるなど、人生第一毛作時代を彷彿とさせる全国各地の講演行脚をしたものです。

なお、人生第三毛作を演じるのを機会に、ある動機と縁を得て、両足に舗装具付けるようになりました。満60歳を過ぎた時。それまで身障者手帳の交付を受けていなかった私ですが、舗装具の検定の際に、担当医から「なぜ、今まで!？」と、訝かわれたものでした。「痩せても枯れても経営者だ」という自負でした。税制等による恩恵を受けることを潔しとしなかったのです。

2009年1月まで続いた15年間の人生第三毛作で執筆した拙著寄稿文や論文は、業界紙(誌)に発表され、件数にして2百件を突破。2004年4月には単行本「トラックドライバー帝王学のすすめ」(文芸社刊・全364頁)を出版するなど、かなり華やかな「人生第3毛作」を演じました。

余談ですが、同出版社が募集した懸賞論文「初恋、初カレ、初カノジョ」と題するエッセイ募集に応募。拙著応募作品が佳作入選しました。題して「人生の恩人 プラトニックラヴした永遠のカノジョ」がそれです。717名の応募作品中の佳作50作品に入りました。

さらに、同出版社が後年募集した「人生いろいろ・懸賞論文」に応募した拙著「いきいき ハツラツ わが人生は三毛作～四毛作への助走開始～」と題する応募作品があったのですが、選外の結果に終わりました。経営者視点から書き下ろしたこともあってか、万人向きがしなかったのでは・・・と勝手な想像をしたものです。

ところが、離日直前は2009年1月、同出版社から、同作品の出版計画への打診が突然に入りました。離日直前のことでもあったし、加えて、「人生第4毛作」こそが最大の自分史最終章足り得る、という自負もあったりで、丁重に断って日本を離れたものでした。ちなみに、その執筆作品は、「自分史」として、日英語で本ウェブサイトにて未完成・執筆中の原稿として双方を掲載しています。

なお、本サイトの各種コラムを通して発信している拙著の数々がありますが、時おりのご訪問をお待ち申し上げます。長文の私のプロフィールになり、失礼しました。なお、本欄は時の推移とともに、若干の修正加筆を行いますので、ご留意のほどお願いします。

2012年6月吉日

吉田祐起

原爆生存証言者／健康・生きがいづくりアドバイザー(フィリピン共和国ラグーナ州在住)

[yoshida.yuuki@a-bombsurvivor.com](mailto:yoshida.yuuki@a-bombsurvivor.com) [Back to Top\(Jpn\)](#) [Back to Top\(Eng\)](#)

(Copyright Yuuki Yoshida, All Rights Reserved)